

いっしょに考えよう！男女共同参画社会 ～ひとりひとりが輝いて生きていくために～

根形中学校の全校生徒を対象に、出前講座を実施しました。日本の男女間での賃金格差や女性議員の比率を例に挙げながら、袖ヶ浦市が目指している『男女共同参画社会』について一緒に勉強しました。講座の後半に実施した寸劇は先生にもご参加いただき、会場は大盛況でした。

講座の資料(抜粋)と寸劇の様子

男女共同参画社会が実現すると



中学生の感想

- 男性は〇〇が当たり前、女性は〇〇が当たり前という考えがなくなりました。男性も女性も自分がやりたいことを尊重することが大切だなと思いました。これからは性別で決めつけず、相手の考えていること、やりたいことを尊重していきたいと思いました。
- 出前講座を聞いていて、「確かに！」と思うことが何度もありました。「一人一人の得意なところを上手く活用して過ごしていきたいな」と思いました。

～ 袖ヶ浦市からのお知らせ ～

令和6年4月1日からパートナーシップ・ファミリーシップ届出制度を開始します！

この制度は、性を問わずパートナーシップやファミリーシップの関係にあることを市に届出することができ、市や事業者が提供する一部のサービスについて、家族と同等の扱いを受けることが可能になるものです。詳細はホームページをご確認ください。

袖ヶ浦市ホームページはこちら→



男女共同参画社会をめざして

パートナー

Partner

第24号

～ひとりひとりが輝いて生きていくために～



男女共同参画推進員による講座の様子（根形中学校出前講座）

掲載内容

- P 2 … 第1回男女共同参画セミナー（女性活躍）
- P 3 … 第2回男女共同参画セミナー（イクメン）
- P 4 … 根形中学校出前講座・袖ヶ浦市からのお知らせ

第1回 男女共同参画セミナー in 袖ヶ浦市役所 令和5年5月25日(木)

『女性のキャリアと社会活躍』

講師 榎村 愛子 さん (愛知大学教員)

愛知大学文学部社会学教員の榎村愛子氏をお招きし、「女性のキャリアと社会活躍」についてのセミナーをオンラインで開催しました。榎村氏は、精神分析理論による現代社会分析やラカン派フェミニズム分析などを専門としており、ジェンダーに関する書籍の発行や講演会、市町村の審議会等、様々な場所で活動をされています。

●自身のキャリア

中学校の国語教員から始まり、夜遅くまで残業のある編集者の仕事…結婚を機に職を離れ、育児とアルバイトを両立しながら大学へ進学するなど、はじめにご自身のキャリアについてお話をいただきました。大学の教員となってからは、授業日が決まっていた働きやすい環境がある一方、放課後に会議が多く育児との両立が困難な部分もあったそうです。女性用トイレが設置されていないなど、女性が働きやすい環境がまだ整っていない当時の教育現場についても知ることができました。

出産後、子どもが4歳になるまでフランスで生活していた榎村氏。地区によっては治安があまり良くない場所もありますが、他人の家の子でも気にせず預かってもらえる文化があるそうです。一昔前の日本のようです。帰国後は両親と二世帯住宅で生活し、東京大学で社会学の勉強を始めました。アルバイトや通学時は子どもを両親に預けており、支えてくれる人の存在がいかに大切か、実体験を交えながらお話いただきました。

●女性が社会で活躍するために

ロールモデルとなる女性研究者として、上野千鶴子氏と江原由美子氏を紹介しています。また「アライ男性(※)」の存在や、性別による無意識の思い込み「アンコンシャス・バイアス」に関する調査結果についてもご説明いただきました。年代が高いほど性別役割意識が強いことを知り、世代間で認識に大きく差があることを痛感しました。



女性のキャリアと社会活躍

榎村愛子(愛知大学教員)

本セミナーの内容は、6月23日から始まった「男女共同参画週間」に合わせ、市の公式YouTubeチャンネルにて公開しています。

動画のページはこちらから→



※アライ (ALLY)

英語で「仲間」、「同盟」という意味。この場合は、LGBTQ+について理解・支援する人のことを指す。

第2回 男女共同参画セミナー in 長浦公民館 令和5年9月23日(土)

『お子さんの「プログラミング的思考」を養う

アンプラグドプログラミング』

講師 鳩飼 猛 さん (株式会社Create Reality 代表取締役)

株式会社Create Reality代表取締役の鳩飼猛氏をお招きして、『お子さんの「プログラミング的思考」を養うアンプラグドプログラミング』についてのセミナーを行いました。今年度は、長浦公民館の「子育てパパ応援講座」と合同で開催し、2歳~就学前のお子さんと、そのお父さん合計14名に参加いただきました。

「アンプラグドプログラミング」とは、パソコンやIT環境を使わずにプログラミングについて学ぶことです。プログラミング的思考は、好奇心旺盛な幼児期に育つと言われていています。2025年以降、大学共通テストでは「情報」の科目が導入されることになり、将来どの職に就いても物事を論理的に考える力が普遍的に求められるようになります。この学習は、遊びながらプログラミングへの苦手意識や抵抗感を減らし、パソコンを使用した学習への移行をスムーズにしよう、というものです。

セミナーでは、プログラミングと出会ったきっかけや、学ぶことで身に付いた考え方について、20分ほどご講演をいただきました。大学3年生の時、「IT企業の社長になりたい!」と思い始めた鳩飼氏。大学を卒業するまでパソコンやプログラミングについての知識はゼロだったそうですが、システム開発会社への就職をきっかけに、プログラマーとしての一歩を踏み出しました。



講演の後は、「アンプラグドプログラミング」の実演として「指示出しゲーム」を親子のペアで行いました。この「指示出しゲーム」とは、マス目で作った迷路を口頭の指示だけでゴールまで導くゲームです。

スタート地点にいるお父さんへお子さんが指示を出し、お父さんがその通りに動くことで「指示を出したから動いた」というプログラミング的思考を養う遊びです。皆様も一度挑戦してみたいかがでしょうか。

参加者の感想

- 難しいテーマだと思いましたが、子どもに合わせた楽しい内容で、参加できて勉強になりました。
- 子どもが落ち着きがないため、いろいろ学んで成長してほしいと思いました。